

KAITEKI Value for Tomorrow

# 田辺三菱製薬の完全子会社化に関する説明会

2019年11月18日

Sustainability

Health

Comfort

 株式会社三菱ケミカルホールディングス

 田辺三菱製薬

## 1. 田辺三菱製薬の完全子会社化の概要

## 2. 本取引の目的・意義

## 3. 田辺三菱製薬の概要

## 4. 本取引による財務インパクト

- **対象会社：田辺三菱製薬株式会社**
  - 本取引前のMCHCの保有株式数316,320,069株、保有比率56.39%
- **手法：公開買付け**
  - 公開買付価格：1株あたり2,010円  
（2019年11月15日終値1,313円に対して53.08%のプレミアム）
- **買付予定株式数：244,666,211株**
  - MCHC保有株式数及び田辺三菱製薬保有自己株式数を除く全て
  - 買付予定株式数の下限：57,670,731株（3分の2）  
（買付予定株式数の上限の設定なし）
- **買付総額：約4,918億円（買付予定株式数取得の場合）**
- **公開買付けのスケジュール**
  - 2019年11月18日：本取引公表
  - 2019年11月19日：公開買付期間開始
  - 2020年1月7日：公開買付期間満了

1. 田辺三菱製薬の完全子会社化の概要

2. 本取引の目的・意義

3. 田辺三菱製薬の概要

4. 本取引による財務インパクト

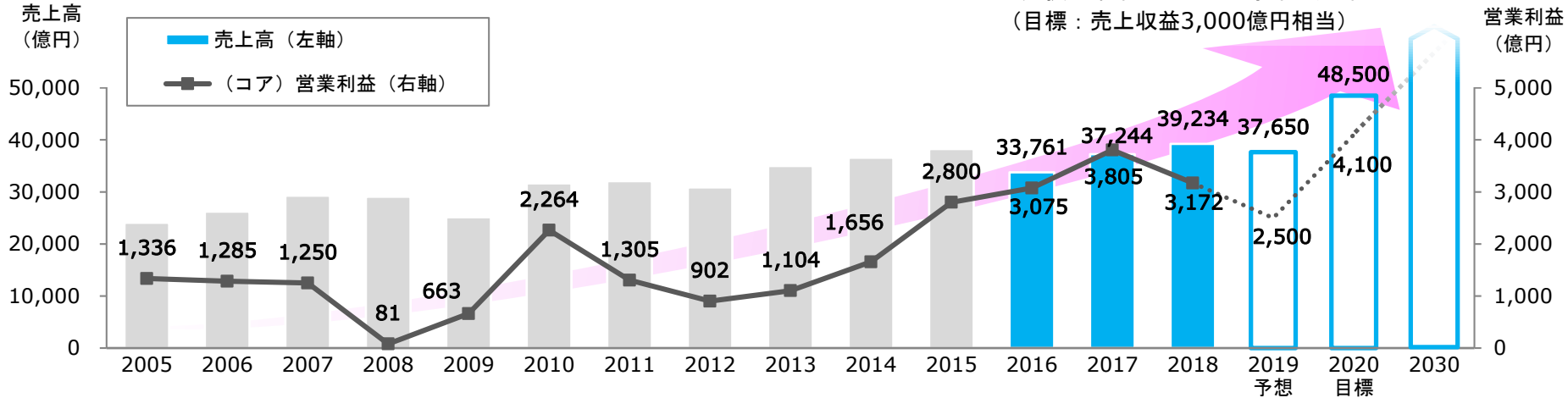
# MCHCグループのポートフォリオ変革の軌跡

MCHCグループは、これまでポートフォリオ変革を通じて、  
強靱なグループ基盤を構築し、持続的成長を実現

## APTSIS 20

中期経営計画(2016-2020年度)

ポートフォリオ改革の加速：成長事業  
の選択と集中・ノンコア事業の売却  
(目標：売上収益3,000億円相当)



医薬事業比率を高め、  
景気変動に左右され  
にくい収益構造へ

医薬事業の強化

2005年：三菱ケミカル  
ホールディングス設立

2007年：  
田辺三菱製薬発足

機能商品分野の  
拡大

2008年：三菱樹脂、三  
菱化学の機能材料事業・  
関連会社（3社）を統合  
2009年：高機能エンジ  
ニアリングプラスチック  
事業のQuadrant AG連  
結子会社化

高付加価値事業に  
ポートフォリオを  
シフト

2010年：三菱レイヨン  
連結子会社化  
2013年：クオリカプス  
連結子会社化

産業ガス事業連結化  
による素材事業の  
収益安定化

2014年：生命科学  
インスティテュート設立  
2014年：  
大陽日酸連結子会社化

統合による  
機能商品群の  
成長加速

2017年：三菱ケミカル  
発足・化学系3事業会社  
統合（三菱化学、三菱樹  
脂、三菱レイヨン）

基礎素材の基盤強化と  
成長分野への投資

2018年：中東MMA  
新プラント本格稼働  
2018年：Cleanpart  
Groupの買収  
2019年：M&Aによる産  
業ガス事業のグローバル  
シェア拡大

2010年：ナイロン  
チェーン事業撤退  
2011年：  
塩ビチェーン・SM  
チェーン事業撤退

2014年：ポリオレフィン  
生産最適化  
2014年：鹿島ナフサク  
ラッカー1基削減  
2016年：水島ナフサク  
ラッカーJVで統合  
2016年：テレフタル酸  
インド・中国事業株式譲渡

2019年：記録メディア  
関連事業の譲渡

※2015年までは日本基準、2016年以降はIFRS基準

# APTSIS 20における主要施策

機能商品、素材、ヘルスケア分野の事業を通じて、高成長・高収益型の企業グループをめざす

## 機能商品

### ポートフォリオ マネジメント強化

- ・ ポートフォリオ改革加速
- ・ フォーカスマーケットの成長戦略の推進

## 素材

### 基盤強化

- ・ MMA、産業ガス  
世界シェア維持・拡大
- ・ 石化の高機能化と生産性最適化

## ヘルスケア

### 医療用医薬品

- ・ パイプライン強化
- ・ 米国展開

### ライフサイエンス

- ・ 再生医療（Muse細胞）
- ・ 健康・医療ICT  
ビジネス推進

## ヘルスケアにおける主な取り組み

- 後期開発品10品目達成へ
- 国内売上収益3,000億円水準を維持
- 米国事業でキーとなる3品目の開発進展
- 業務生産性改革により300億円コスト削減へ
- Muse細胞の急性心筋梗塞及び脳梗塞等の臨床試験開始
- Muse細胞製品の細胞加工施設稼働
- PHCホールディングスとの戦略的資本提携

三菱ケミカル発足による統合効果と協奏

グローバル市場へのアクセス・マーケティング力強化  
(リージョナルヘッドクォーター設立等)

次世代テーマの早期事業化  
(R&D、オープンイノベーション、DX)

KAITEKI経営の深化、働き方改革の推進

# 本取引の意義

事業会社間の協業深化によるシナジー発現及び田辺三菱製薬の潜在的成長力の最大化を実現

人、社会、そして地球の心地よさがずっと続いていくこと = KAITEKIの実現

Sustainability

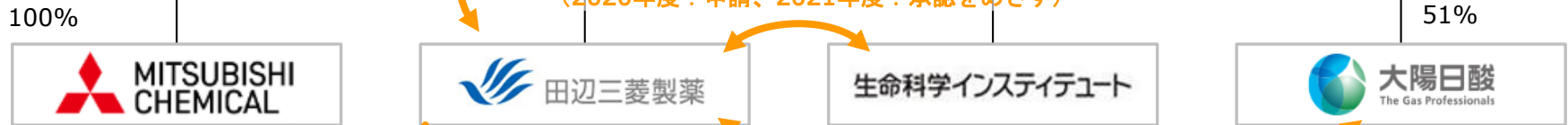
Health

Comfort



- ・ 安定的R&D投資の支援  
新たな医薬品や医療への投資
- ・ 田辺三菱製薬によるMCHCの海外の  
財務・総務・人事関連機能の活用

- ・ グループ体経営の効率化  
(グローバルな人的・物流ネットワーク  
の相互活用/グループ資金の効率運営)



- ・ Muse細胞の臨床開発の推進  
(2020年度：申請、2021年度：承認をめざす)

- ・ メディカル・フード・バイオ  
事業の新ソリューション創出
- ・ 機能代替医療機器に用いられ  
る素材開発の推進

- ・ ヘルスケア・プラットフォーム構築  
(ヘルスケア関連の人材・技術の共有)
- ・ 再生医療・予防・疾病管理分野  
における取り組み強化

- ・ ガス、安定同位体を用いた医薬品、  
診断薬の創製

デジタルメディスン、バイオ技術、マイクロバイオーム等の成長分野の強化

有機合成、バイオ技術

極低温/凍結技術

薬理学的有効性/安全性評価

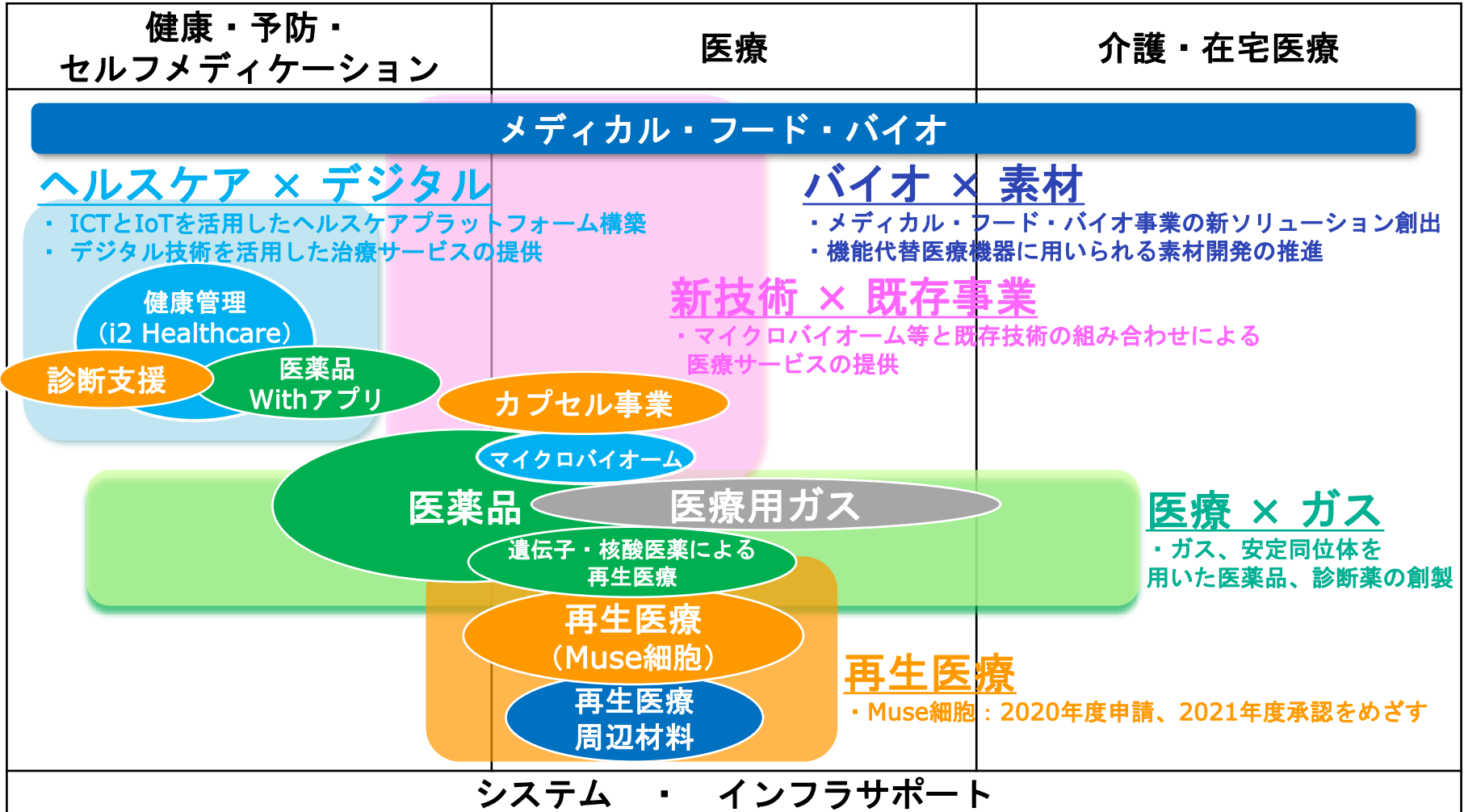
吸着分離

分析技術、計算科学/シミュレーション

# 成長事業でのグループシナジー

独自の素材と技術プラットフォームの組み合わせ（掛け算）によるシナジーの創出

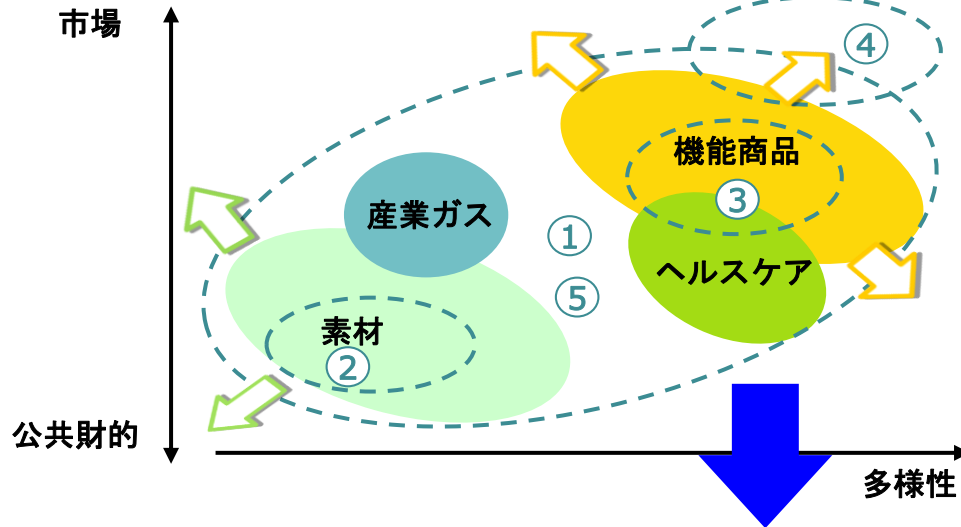
■ 三菱ケミカルホールディングス 
 ■ 三菱ケミカル 
 ■ 田辺三菱製薬 
 ■ 生命科学インスティテュート 
 ■ 大陽日酸





# ヘルスケア事業 × デジタル シナジー

## デジタルプラットフォームの活用によるシナジーの創出

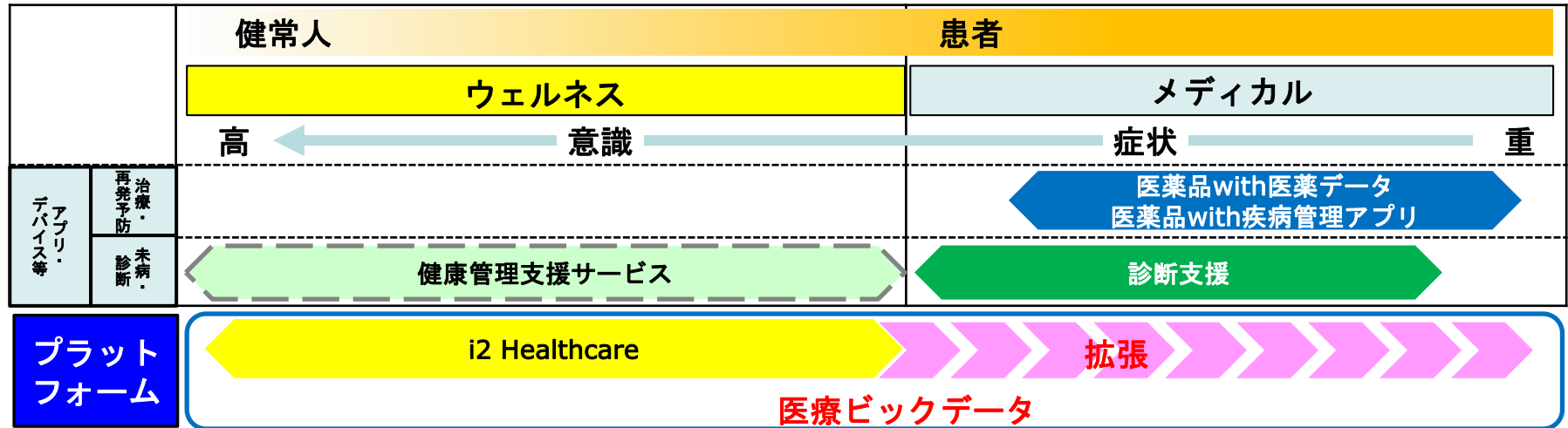


### MCHC DX戦略

DX・・・デジタルトランスフォーメーション

- ① 運用および施設稼働のデジタルによる最適化
- ② 産業公共財的な役割の強化
- ③ 市場への製品投入までの時間短縮、  
マテリアルインフォマティクス強化
- ④ 多様な機能を提供するため、デジタル化による  
新枠組みやコト化の構築
- ⑤ デジタルネイティブ風土の醸成

### MCHCヘルスケア・プラットフォーム（デジタル）



1. 田辺三菱製薬の完全子会社化の概要

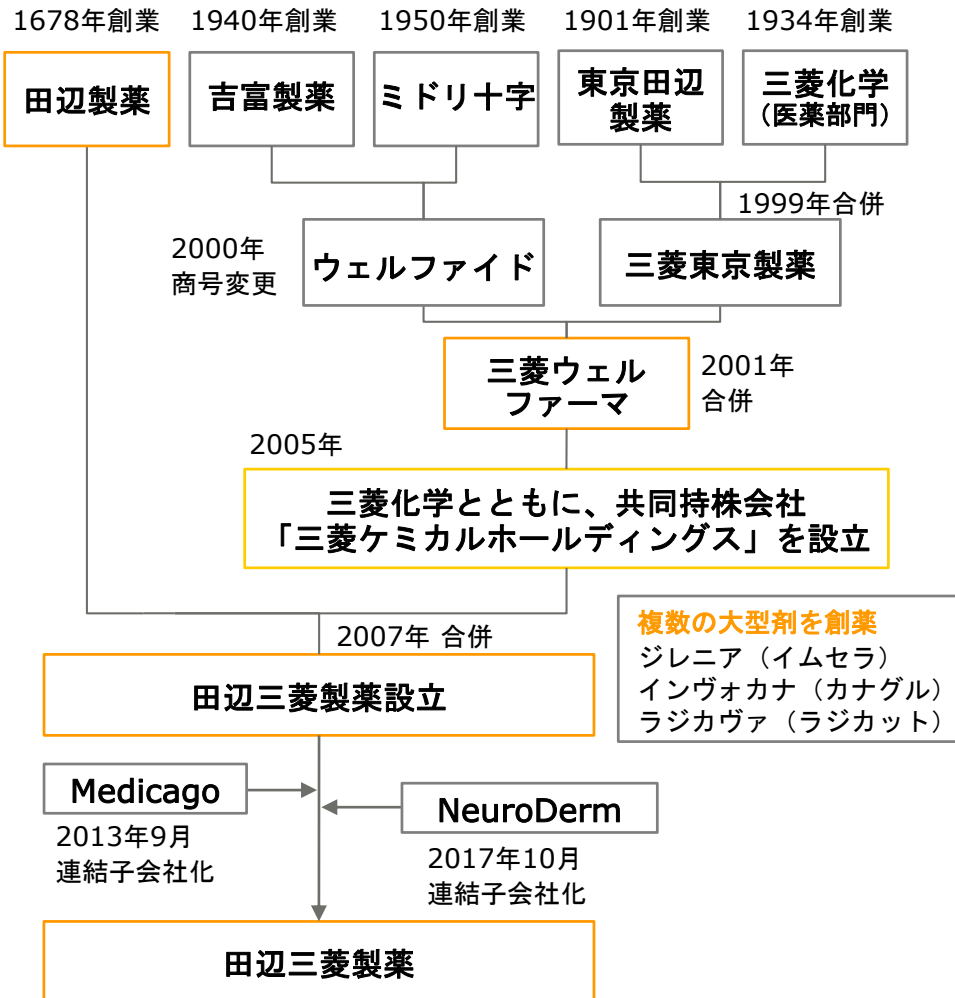
2. 本取引の目的・意義

3. 田辺三菱製薬の概要

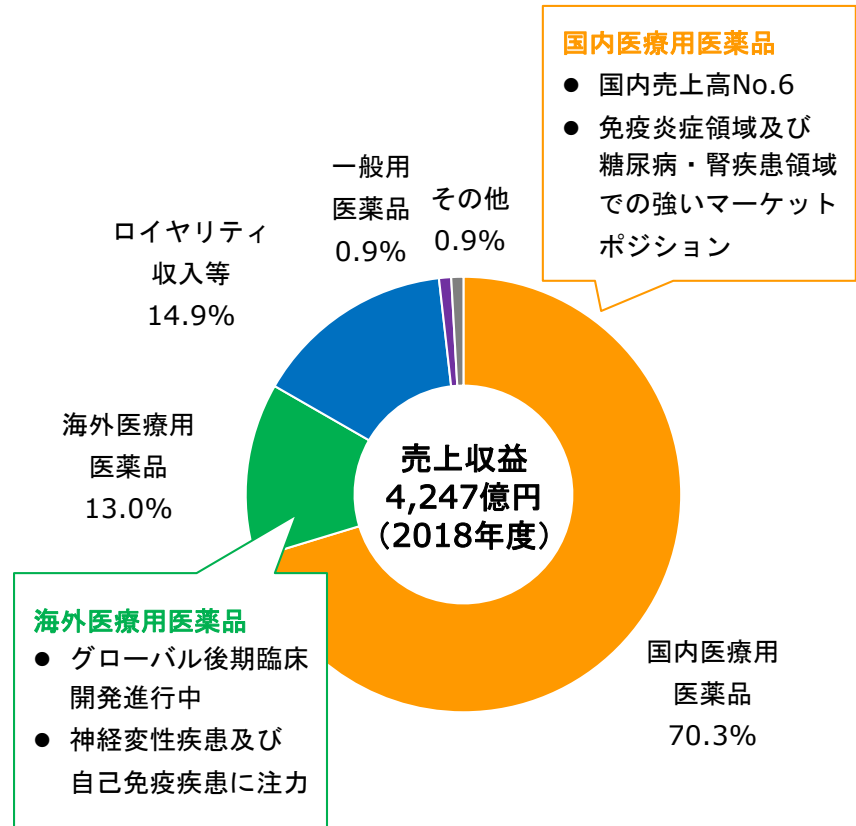
4. 本取引による財務インパクト

# 田辺三菱製薬の概要

## 設立の歴史



## 事業構成 (2018年度)



	ラジカヴァ/MT-1186	ND0612	MT-2271
適応症	筋萎縮性側索硬化症 (ALS)	パーキンソン病	季節性インフルエンザ ワクチンの予防 (高齢者、成人)
売上ポテンシャル	700~1,000億円	500~800億円	400~600億円
主薬効成分	エダラボン	レボドパ / カルビドパ	植物由来VLPワクチン
剤型	静注/経口懸濁剤	持続皮下注投与ポンプ製剤	皮下注製剤
開発ステージ	P3準備中 (経口)	P3	P3(米国)
上市時期	2021年度 (経口)	2022年度	2021年度

# 長期的な成長を支える重点4領域の主要な開発パイプライン

重点領域	品目	開発地域	想定適応症	P1	P2	P3	申請	承認
中枢神経	MCI-186	グローバル	ALS					中国
	MT-1186*1	グローバル	ALS/経口懸濁剤			準備中		
	ND0612*1	グローバル	パーキンソン病					
	MT-8554	グローバル	更年期に伴う血管運動神経症状			準備中		
	MT-3921	グローバル	脊髄損傷					
	MT-0551 (イネビリズムブ)	日本	視神経脊髄炎関連疾患				準備中	
	MT-5199	日本	遅発性ジスキネジア					
免疫炎症	MT-7117	グローバル	赤芽球性プロトポルフィリン症					
	MT-2990	グローバル	子宮内膜症					
	MT-5547	日本	変形性関節症					
糖尿病・腎	MT-3995	グローバル	非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH)					
	MT-6548	日本	腎性貧血					
	TA-7284	日本	糖尿病性腎症					
	MP-513	中国	2型糖尿病					
ワクチン	MT-2271*1	グローバル	季節性インフルエンザ /VLPワクチン*2				カナダ	
	MT-2355	日本	5種混合ワクチン*3					

\*1 前頁にて記載したパイプラインも含む

\*2 米国は高齢者及び成人のP3試験結果を解析中

\*3 小児における百日せき、ジフテリア、破傷風、急性灰白髄炎およびHib感染の予防

## 1. 田辺三菱製薬の完全子会社化の概要

## 2. 本取引の目的・意義

## 3. 田辺三菱製薬の概要

## 4. 本取引による財務インパクト

# 本取引による財務インパクト

## 資金調達

- 公開買付けに必要な資金は銀行借入により充当
- 長期性資金への借換えについては今後検討予定（新株発行を伴う資金調達は想定せず）

## 財務指標

- 財務レバレッジ（Net D/Eレシオ）は一時的に悪化するものの、3年を目途に、Net D/Eレシオを1.0x以下に改善することをめざす

## 株主還元

- 中期的な連結配当性向30%および安定配当の方針を維持

本説明会および本資料における見通しは、現時点で入手可能な情報により当社が判断したものです。実際の業績は様々なリスク要因や不確実な要素により、業績予想と大きく異なる可能性があります。

当社グループは情電・ディスプレイ関連製品、高機能成形材料、高機能ポリマー、MMA、石化製品、炭素製品、産業ガス、医薬品等、非常に多岐に亘る事業を行っており、その業績は国内外の需要、為替、ナフサ・原油等の原燃料価格や調達数量、製品市況の動向、技術革新のスピード、薬価改定、製造物責任、訴訟、法規制等によって影響を受ける可能性があります。但し、業績に影響を及ぼす要素はこれらに限定されるものではありません。